

## CATI-j

以下は、さまざまな性格や行動、特性に関する項目のリストです。「まったく当てはまらない」～「とても当てはまる」の5つの選択肢の中で、あなたに最もあてはまるものを選んでください。

社会的・社交的なこと（“社交の場” “社会的な行事” “社会的な交流”）をたずねる質問に関しては、親しい友人や家族ではなく、それ以外の複数の人とかかわることを求められる場面を想定して回答してください。あまり考え込みすぎずに、回答を進めるようにしてください。

		まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	まあ当てはまる	とても当てはまる
1	気づくと、物を繰り返しいじったり遊んだりしていることがよくある（ペンをカチカチさせたり回したりするなど）	1	2	3	4	5
2	毎日行うことは、特定の決まったやり方でやりたいと思う	1	2	3	4	5
3	人に合わせようとする、かなりの精神的なエネルギーを使う	1	2	3	4	5
4	明るい光にとっても敏感だ	1	2	3	4	5
5	いつも同じやり方をしている特定の活動や行動がある	1	2	3	4	5
6	社交的であることを求められると（人と積極的に関わるように言われるなど）、他の人のやり取りする様子を見て、それを真似しようとするときどきある	1	2	3	4	5
7	椅子に座っているときに、椅子をよく前後に揺らす	1	2	3	4	5
8	たいていの社会的な行事を楽しめる	1	2	3	4	5
9	自分が今より社交的に見える方略や方法を探している	1	2	3	4	5
10	社交の場で、他の人との交流を避けようとする	1	2	3	4	5
11	自分の感覚に過度に負荷がかかっていると感じることもある	1	2	3	4	5
12	気持ちを落ち着かせたり、考えをまとめたりするときに、特定のものをいじったり、遊んだりする	1	2	3	4	5
13	非言語的な手がかり（表情、しぐさや身振りなど）を読み取ることは難しい	1	2	3	4	5
14	自分の持ち物を特定のやり方で分類するのが好きで、その通りになっているかを確認することに時間をかける	1	2	3	4	5
15	社会的な交流は自分には簡単なことだ	1	2	3	4	5
16	人とやりとりするとき、自分がどのように振舞っているのかをチェックするのにかなりの労力を使う	1	2	3	4	5

		まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	まあ当てはまる	とても当てはまる
17	社会的な交流は自分にはストレスになる	1	2	3	4	5
18	触覚の過敏さがある（触られることや肌触り，食感など）	1	2	3	4	5
19	表情からその人の気持ちがわかる	1	2	3	4	5
20	同じところを繰り返し歩き回ったり，ウロウロしたりする傾向がある	1	2	3	4	5
21	特定の決まりごとを最後までやれないと居心地が悪い	1	2	3	4	5
22	人と話すときには，（振る舞いや会話の進め方についての）筋書きをいくつか作っておき，それをたよりにしている	1	2	3	4	5
23	人がどう感じているかを汲み取ることは簡単だ	1	2	3	4	5
24	しょっぱい，すっぱい，辛い，甘いなどの特定の味覚に敏感だ	1	2	3	4	5
25	ストレスを感じると，特定の行動を繰り返してしまう	1	2	3	4	5
26	人とのやりとりで，非言語的な手がかり（表情，しぐさや身振りなど）をめったに使わない	1	2	3	4	5
27	特定のやり方でやりたい，もしくは「ちょうどよい感じ」になるまでやり直したいと，言い張ることがよくある	1	2	3	4	5
28	初対面の人に会うとき，上手に対応できる自信がある	1	2	3	4	5
29	社交の場に行くときには，うまく振る舞えるように事前に筋書きを作っておき，可能な限りその通りにする	1	2	3	4	5
30	社会的な行事はたいてい難しいものである	1	2	3	4	5
31	ある匂いに気を取られて，他のことに集中できなくなることがある	1	2	3	4	5
32	他の人から見ると特徴的でお決まりのくり返し行動がある（髪をなでるなど）	1	2	3	4	5
33	比喩や言葉のあやで，よく混乱する	1	2	3	4	5
34	一度決めた計画が変更されるとイライラする	1	2	3	4	5
35	新しい友人を作るのは難しい	1	2	3	4	5
36	予期せぬ大きな音にはうまく対応できない	1	2	3	4	5
37	他者の視点を理解するのは難しい	1	2	3	4	5
38	物を列やパターンで並べ替えるのが好きだ	1	2	3	4	5
39	決まったルールに従うことで，社交の場を切り抜けようとする	1	2	3	4	5
40	光がチカチカするのに敏感だ	1	2	3	4	5
41	やめるのが難しいと感じる決まった習慣がある（爪を噛んだりむしったり，髪の毛を引っ張るなど）	1	2	3	4	5
42	社会的な場面での暗黙のルールを理解するのが難しい	1	2	3	4	5

## CATI-j について

### 1. Comprehensive Autism Trait Inventory 日本語版 (CATI-j) について

CATI-j は、一般人口における成人の自閉症特性を測定する自己報告式の質問紙です。この CATI-j は研究のために作成されています。使用にあたっては、原著者 Michael English 氏のウェブサイト (<https://www.cati-autism.com/>) で、CATI の概要や使用についての注意事項などをよく読み、十分に理解してから、ご使用ください。

### 2. 使用許諾について

これらの尺度を研究、教育、臨床目的で使用する際に限り、原著者及び日本語版著者の事前の使用許可は必要としません。研究で使用する際には、論文には以下のように出典を明記していただければと思います。

CATI 原版の論文：<https://doi.org/10.1186/s13229-021-00445-7>

English MCW, Gignac GE, Visser TAW, Whitehouse AJO, Enns JT, & Maybery MT (2021). The Comprehensive Autistic Trait Inventory (CATI): development and validation of a new measure of autistic traits in the general population. *Molecular Autism*, 12(37).

CATI 改定版の論文：<https://doi.org/10.1177/13623613251347740>

English MCW, Poulsen RE, Maybery MT, McAlpine D, Sowman PF, & Pellicano E (2025). Psychometric evaluation of the Comprehensive Autistic Trait Inventory in autistic and non-autistic adults. *Autism*, 29(12), 2955-2974.

CATI 日本語版の論文：<https://doi.org/10.1027/2698-1866/a000090>

Okada S, Chida W, English MCW, Shibata J, Onsen M, Tsutsui J, & Nakamura-taira N (2024). Development and validation of the Japanese version of the Comprehensive Autism Trait Inventory in university students. *Psychological Test Adaptation and Development*, 5(1), 337-350.

### 3. 臨床での使用につきまして

CATI は、自閉症スペクトラム障害（自閉スペクトラム症）の鑑別・診断のために開発された尺度ではありません。また、原版、日本語版ともに、信頼性・妥当性は検証されていますが、現時点では、この尺度で自閉症の判別が可能かどうか検証されてはいません。自閉症特性やそれに類似する症状や困難は、一般の人々にも多かれ少なかれみられるものですし、そのような症状の背景には単一ではない複雑な要因があるため、CATI の結果をもって、自閉症かどうか判断はできません。本尺度を実施したのち、ご自身の状態について心配になった方は、専門機関や専門の医師等に相談してみる必要があります。研究者が本尺度を使用する際にも、質問紙に回答した方に心配や懸念が生じた場合には、専門機関を紹介する、専門家によるアフターケアをおこなうなど対応していただくことが望まれます。

### 4. スコアリングについて

以下の項目の合計点を下位尺度得点とします。\* は逆転項目です。

**社会的交流 (SOC)** : 項目 8\*, 10, 15\*, 17, 28\*, 30, 35

**コミュニケーション (COM)** : 項目 13, 19\*, 23\*, 26, 33, 37, 42

**社会的カモフラージュ (CAM)** : 項目 3, 6, 9, 16, 22, 29, 39

**認知的柔軟性 (FLX)** : 項目 2, 5, 14, 21, 27, 34, 38

**反復・自己調整行動 (REG)** : 項目 1, 7, 12, 20, 25, 32, 41

**感覚過敏 (SEN)** : 項目 4, 11, 18, 24, 31, 36, 40

下位尺度名については、否定的な含意を避けることと、その特性をより正確に表現することを目的に、English et al. (2025) では FLX (旧 RIG) と REG (旧 REP) の名称が変更になりました。そのうち REG (Self-Regulatory Behaviours) については、自己調整行動の訳語のみでは自閉症特性を十分に反映しにくいいため、CATI-j では旧表記も併記した「反復・自己調整行動 (REG)」の尺度名を用いることとします。

開発者：千田若菜, 柴田珠里, 温泉美雪, 筒井順子, 中村菜々子, 岡田 智  
問合せ先：[s.okada@edu.hokudai.ac.jp](mailto:s.okada@edu.hokudai.ac.jp) (岡田)